

## 損益計算書の要旨

損益計算書は、事業年度内に本学が実施した事業等により発生したすべての費用と収益を記載することにより、その運営状況を明らかにしています。

経常費用	(単位: 億円)		
	21年度	22年度	増減
業務費用	373.1	363.7	▲9.4
教育経費	22.6	19.6	▲3.0
研究経費	23.3	23.1	▲0.2
診療経費	120.4	118.2	▲2.2
教育研究支援経費	3.2	2.2	▲1.0
受託研究等経費	14.7	15.7	1.0
人件費	188.5	184.7	▲3.8
一般管理費	13.7	14.2	0.5
財務費用	5.2	4.7	▲0.5
経常費用合計	392.0	382.7	▲9.3

経常収益	(単位: 億円)		
	21年度	22年度	増減
運営費交付金収益	141.7	125.0	▲16.7
学生納付金収益	39.7	41.8	2.1
附属病院収益	165.8	182.9	17.1
受託研究等収益	15.3	15.8	0.5
寄附金収益	9.5	10.5	1.0
施設費収益	2.3	2.2	▲0.1
補助金収益	7.3	4.2	▲3.1
資産見返負債戻入	7.7	9.8	2.1
財務収益	0.2	0.0	▲0.2
雑益	4.5	4.8	0.3
経常収益合計	394.6	397.3	2.7

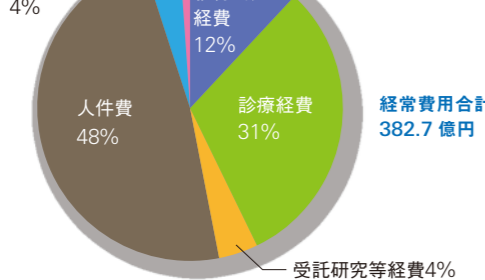
臨時損失	(単位: 億円)		
	21年度	22年度	増減
固定資産除却損	0.1	2.1	2.0
その他	0.0	0.1	0.1

注) 単位未満を切り捨てているため、必ずしも計は一致しません。

### 当期総利益

21年度	22年度	増減
23.8	13.1	▲10.7

注) 単位未満を切り捨てているため、必ずしも計は一致しません。



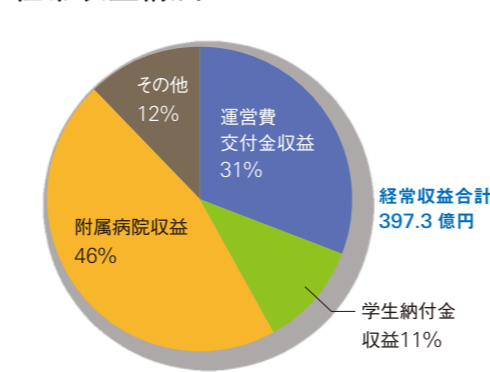
### 経常費用の概略

- 人件費が全体の半分以上を占めていますが、定員削減等により3.8億円減少しています。
- 次に多い診療経費は診療報酬獲得のために要する経費ですが、委託費等の減少に伴い2.2億円減少しています。
- 受託研究等経費は、受託研究等の受入が増加したことにより、1.0億円増加しています。
- 教育経費は、修繕費等が減少したことにより、3.0億円減少しています。

臨時利益	(単位: 億円)		
	21年度	22年度	増減
運営費交付金収益	9.7	0.0	▲9.7
承継剰余金債務戻入	0.3	0.0	▲0.3

目的積立金取崩額	(単位: 億円)		
	21年度	22年度	増減
目的積立金取崩額	11.2	0.8	▲10.4

### 経常収益構成 (22年度)



### 経常収益の概略

- 収益は、附属病院収益と運営費交付金収益で全体の約8割を占めています。
- 運営費交付金収益は毎年減少しており、22年度は16.7億円減少しています。(22年度に交付された運営費交付金のうち11.1億円は運営費交付金債務として繰越したため、22年度の収益には計上されず、収益の減少要因となっています。なお、繰越した運営費交付金債務は翌年度以降に収益化されます。)
- 附属病院収益は、診療報酬が10年ぶりのプラス改定となったこと、西病棟が開院(21年9月)したこと等により、17.1億円増と大幅に増加しています。

## 貸借対照表の要旨

貸借対照表は、決算日における本学の全ての資産、負債及び純資産を記載することによりその財政状態を明らかにすることを目的としています。

資産の部	(単位: 億円)		
	21年度	22年度	増減
土地	448.6	448.6	0.0
建物	219.4	222.0	2.6
建物附属設備	111.5	110.8	▲0.7
図書	28.9	28.9	0.0
工具器具備品	76.1	76.3	0.2
建設仮勘定	8.4	0.3	▲8.1
現金預金	100.0	36.9	▲63.1
未収附属病院収入	29.8	36.5	6.7
有価証券	46.0	77.7	31.7
その他	28.2	39.2	11.0

負債の部	(単位: 億円)		
	21年度	22年度	増減
資産見返負債	76.1	76.5	0.4
センター債務負担金	180.0	160.8	▲19.2
借入金	82.0	79.2	▲2.8
未払金	92.6	56.1	▲36.5
運営費交付金債務	0.0	11.1	11.1
寄附金債務	42.1	50.2	8.1
その他	8.1	12.8	4.7
負債の部合計	481.1	447.0	▲34.1

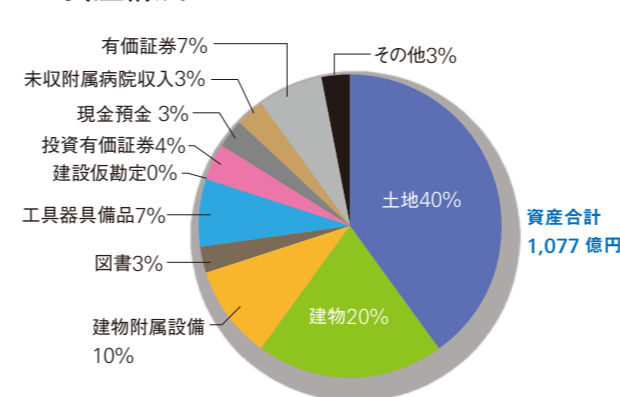
純資産の部	(単位: 億円)		
	21年度	22年度	増減
資本金	467.4	467.4	0.0
資本剰余金	98.7	115.8	17.1
利益剰余金	50.1	47.4	▲2.7
純資産の部合計	616.3	630.7	14.4

資産合計	1,097.5	1,077.7	▲19.8
------	---------	---------	-------

注) 単位未満を切り捨てているため、必ずしも計は一致しません。

負債及び純資産合計	1,097.5	1,077.7	▲19.8
-----------	---------	---------	-------

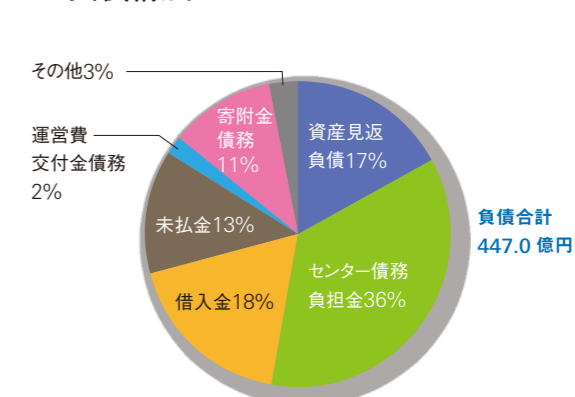
### 資産構成 (22年度)



### 資産構成

- 土地が全体の約4割を占めています。
- 建物の2.6億円増は、生命科学総合実験研究棟、総合科学部1号館等の改修を行ったことによるものです。
- 建設仮勘定の8.1億円減は、生命科学総合実験研究棟、総合科学部1号館等の改修工事竣工に伴うものです。
- 現金預金の減は、主として国債等の有価証券を新規に取得したことによるものです。
- 未収附属病院収入の増は、主として2月、3月分の診療報酬増によるもの(保険請求分)です。
- 有価証券の増は、国債等の有価証券を新規に取得したことによるものです。

### 負債構成 (22年度)



### 負債構成

- センター債務負担金及び借入金が全体の約5割を占めています。
  - センター債務負担金及び借入金の返済は順調に進んでおり、合計で前年度比約22億円減少しています。
  - 負債構成比率(※参照)は29%となっており、前年度比で4%減少しています。
- ※負債構成比率(財務の健全性・安全性を示す指標の一つ)  
 =(センター債務負担金+借入金+未払金+その他負債)/負債及び純資産合計

# The University of Tokushima Financial

# Report

をもちに作成しました。

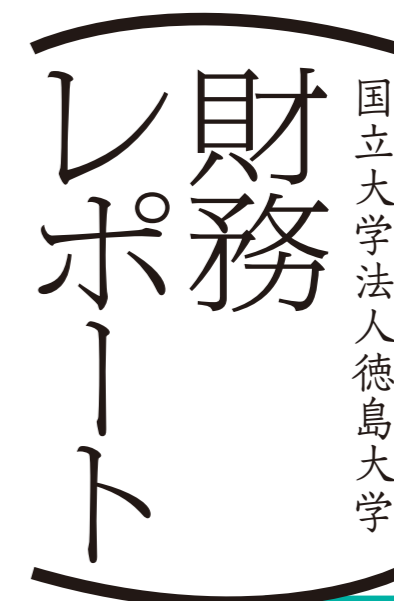
平成22事業年度の徳島大学は、附属病院収益その他の業務収益の増加、業務の効率的な実施による経費の削減などにより利益を計上することができました。一方で、他の国立大学法人と同様、徳島大学の財政基盤の多くは運営費交付金等の国からの補助で支えられています。運営費交付金については、法人化翌年の平成17年度からは、法人化翌年の平成17年度から毎年減額されています。このことは徳島大学の財政基盤が毎年厳しくなることを意味しており、今後とも安定した経営を行うために、引き続き、自己収入の増加及び競争的資金の獲得に努めて行くことが必要であると考えております。

このように、徳島大学を取り巻く環境は厳しさを増しておりますが、豊かな緑、澄みきった水、爽やかな風、温暖な気候に恵まれた徳島の地にあって、「地域に生き、世界に羽ばたく徳島大学」として、教育・研究・社会貢献及び診療の各分野にわたり、その充実を図るとともに不断の見直し・改善を進めてまいりました。

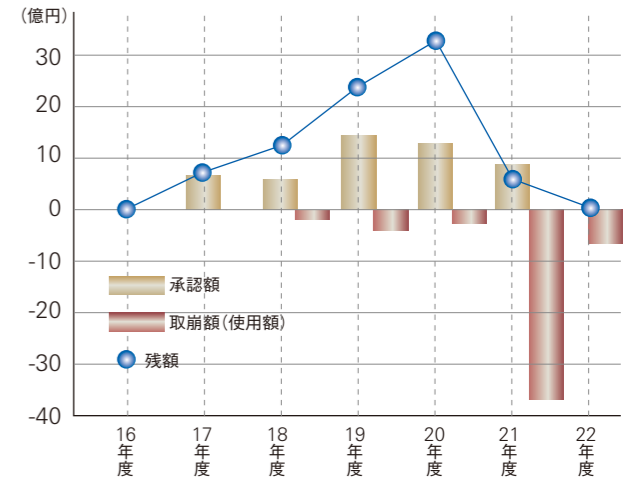
徳島大学は本学を支えてくださる多くの学生、保護者、同窓生、地域の皆様に透明性の高い財務情報を提供し、大学の財政状態及び運営状況についてご理解いただけるように努めることが重要な責務の一つと考えております。

平成16年4月、本学は他の全ての国立大学と同様法人化し、国から独立した経営体としての運営を行うこととなり、本年度(平成22年度)で法人化後7年が経過いたしました。

この財務レポートは、徳島大学の現在の財務状況をできるだけ分かりやすくお伝えすることを目的として、平成22事業年度財務諸表

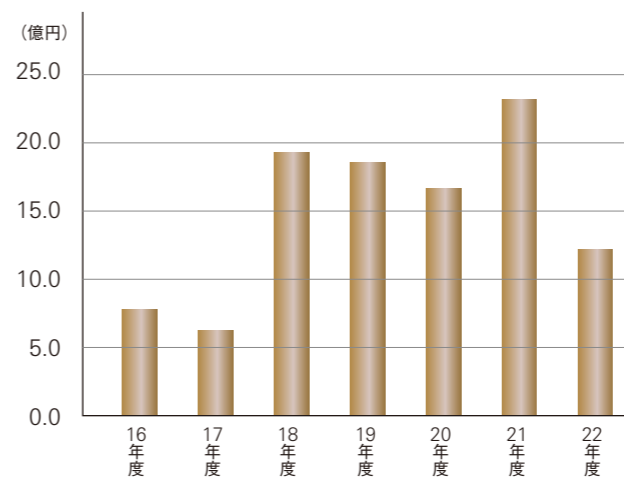


## 目的積立金



注)目的積立金取崩額(使用額)は目的積立金の減として負の表示としています。

## 当期総利益



## 目的積立金の概略

国立大学法人は、利益の獲得を目的とはせず、補助金(運営費交付金)を受けて事業を実施する法人であるため、損益均衡の原理が会計制度の基本となっています。しかし、経費の節減、自己収入の増加など経営努力を行った際には利益が生じることとなります。当期総利益のうち文部科学大臣の承認を受けた額については目的積立金として積み立てられ、翌事業年度への繰り越し及び使用が可能となります。

この目的積立金は、中期計画で定めた用途に充てることができ、本学の中期計画においては、「決算において剰余金が発生した場合は、教育研究の質の向上及び組織運営の改善に充てると定めています。平成21年度から繰越した目的積立金の残額については、当初の計画どおり生命科学総合実験研究棟の改修等に全額充当しています。なお、平成22年度は目的積立金として申請するものではありません。

## 主な施設の整備



蔵本地区 生命科学総合実験研究棟改修  
平成22年9月完成

総合科学部1号館改修  
平成23年2月完成

常三島地区 体育館改修  
平成23年3月完成

## 主な施設の整備状況

蔵本地区では、平成21年度から工事が進められてきた生命科学総合実験研究棟が平成22年9月に完成しました。旧第3病棟から実験研究棟への内外装・耐震改修を行うことにより、医療系学部(医・歯・薬・栄養・保健)を集約した生命科学「統合教育」[融合研究]の基盤構築を行い、人間性を身につけた医療人育成と健康生命科学研究の推進を目指しています。

常三島地区では、平成21年度から3期にわたって進められてきた総合科学部1号館の内外装・耐震改修工事が平成23年2月に完成しました。新たに大学院ゼミ室・学生自習スペース等を整備し、自立的学習基盤確立と学習環境の向上を図っています。

また、体育館の内外装・耐震改修工事が平成23年3月に完成し、学生への安全な活動環境を提供すると共に、徳島市より指定されている地震災害時避難所としての役割も担っています。

平成23年度には、(蔵本)図書館分館改修、(病院)新外来診療棟改築に伴う支障建物(臨床研究棟東側・救急診療棟)取り壊しなどが予定されています。

## まとめ

平成22事業年度は第2期中期目標・中期計画(平成22事業年度～平成27事業年度)の初年度にあたります。本事業年度の徳島大学は、自己収入の確保、予算の効率的執行に努めた結果、経常収益が2.7億円増加、経常費用が9.3億円減少する等、良好な財務状態を維持し、第2期を順調にスタートすることができました。しかし、本学を含む国立大学法人の財政基盤を支える運営費交付金等の国からの補助については、毎年減額されている状況であり、本学を取り巻く環境は厳しさを増しています。

このような状況のもとで、今後とも安定した経営を行うために、引き続き、自己収入の増加及び競争的資金の獲得に努めるとともに「地域に生き、世界に羽ばたく徳島大学」として、教育・研究・社会貢献及び診療の各分野にわたる、その充実と不断の見直し・改善を進めて参りますので、今後ともご指導、ご支援をよろしくお願い申し上げます。

## 地域貢献

# チャリティー精神にあふれた 熱いロンドンマラソン

大学開放実践センター 教授

## 田中 俊夫

(たなかとしお)

4月17日、大学開放実践センターの公開講座の受講者35名が世界3大マラソンの1つ、ロンドンマラソンを走ってきました。この大会はチャリティーマラソンとしても有名で、さまざまな慈善団体がロンドンマラソンを目標に募金活動を行っています。2010年は68億円を集め、イベントの募金総額としてギネス記録を連続更新中なのです。ランナーの4分の3は何らかの形でチャリティーに関わるといわれます。

ロンドンマラソンの準備中起こった東日本大震災。「日本を応援しよう!」世界に先駆けてロンドンでそんな活動が始まりました。受講生から「ロンドン市民に感謝のメッセージを伝えるTシャツを着て走りたい」という提案があり、ブルー地に日の丸マーク、そして

「感謝」の英語「Gratitude」を胸に、背面は「日本の復興を願って!」の意味で「Revival Japan」をプリントしたTシャツを作成し、レースで着用しました。そしてレースの中で被災地に届ける募金活動も行いました。

レース当日は快晴、沿道にはたくさんの方々が声援を送ってくれます。私たちのTシャツを見ると「GO! JAPAN!」と大歓声。「日本の地震の被災者の方に寄付をお願いします!」とマイクで声をかけると、コインを握ったたくさんの方々が手を握ります。「ニッポン、ガンバツテ」という日本語も結構聞かれました。本当に涙が出そうになるくらい感動的な光景でした。多くのランナーからも日本を心配していると声をかけていただきました。

10キロ地点でコインは20キロほどの重さとなり、これ以上募金を続けるると完走が危うくなるということで、募金活動は中止し、感謝のメッセージボードを手にゴールを目指しました。応援の人垣はところによっては三重、四重にも。我々を見ると「ジャパン、ジャパン」の大声援が聞こえます。それはマラソンのクライマックス、ピッグベンを通過し、バックインガム宮殿のゴールを駆け抜けるまで続

きました。

20キロのコインは10995ポイントとなり、帰国後に震災義援金として寄付させていただきました。ロンドンの皆さんの日本を心配してくれる熱い気持ちに直接触れることができ、またチャリティー精神が文化として根付いていることを実感できました。マラソンを通じて貴重な体験と勉強ができたロンドンマラソンでした。

## 徳島大学役職員の報酬・給与等の水準公表について

国立大学法人の役職員の報酬・給与等については、国家公務員や民間企業の給与、法人の業務の実績を考慮し、社会一般の情勢に適合したものとすべく、各法人がそれぞれ支給の基準を定め、総務省の定めるガイドラインに基づき公表を行うことになっていきます。

徳島大学もその趣旨に沿って、ホームページにおいて、平成22年度に支給した役員の報酬等、常勤職員の給与、職員と国家公務員及び他の国立大学法人等との給与水準(年額)の比較指標及び総人件費等を公表しています。

詳しくは徳島大学ホームページの「大学紹介」↓「情報公開・個人情報保護」↓「法定公開情報」↓「国立大学法人徳島大学の役職員の報酬・給与等について」をご覧ください。

[http://www.tokushima-u.ac.jp/\\_files/00037600/h22\\_kyuyosujunkouhyou.pdf](http://www.tokushima-u.ac.jp/_files/00037600/h22_kyuyosujunkouhyou.pdf)